

疾患名：先天性サイトメガロウイルス感染症

1. 日本における有病率、成人期以降の患者数（推計）

症候性、無症候性にかかわらず何らかの異常を伴う先天性サイトメガロウイルス感染症の頻度は、現在出生 1000 名に対し 1 と推定されている。成人では調査データはない。

2. 小児期の主な臨床症状・治療と生活上の障害

症候性の場合には、胎児発育遅延にともなう低出生体重、肝脾腫、脳室内石灰化、脳室拡大、肝機能異常、血小板減少、網膜炎、けいれんなどの症状を伴う。無症候性の状態で出生しても、その後難聴や精神運動発達遅滞、てんかんなど遅発性障害が出現することがある。

3. 成人期の主な臨床症状・治療と生活上の障害

難聴や視力障害、精神運動発達遅滞、てんかんなど

4. 経過と予後

症候性の場合には、胎児発育遅延にともなう低出生体重、肝脾腫、脳室内石灰化、脳室拡大、肝機能異常、血小板減少、網膜炎、けいれんなどの症状を伴う。無症候性の状態で出生しても、その後難聴や精神運動発達遅滞、てんかんなど遅発性障害

5. 成人期の診療にかかわる（べき）診療科

神経内科、眼科、リハビリテーション科

6. 成人期に達した患者の診療の理想

a. 成人診療科（診療科名：神経内科）に全面的に移行

7. 成人期に達した患者の診療の現実

c. 小児科で診療を続けながら医師・患者の関係を变えてゆく

8. 理想(6)と現実(7)の乖離の理由

a. 成人診療科側の受入れの不備・不十分

9. 成人期に達しても移行が進まない場合の問題

入院が必要な場合には小児科病棟への入院が必要。

10. 解決のためにすべき努力

a. 成人診療科の医療者を対象に疾患についての教育・啓発

11. 移行に関するガイドブック等

e. 未定